

三次市立「学びの多様化学校」について

1 めざす学校像

つながる 学ぶ みつける

学校内外の多様なひとがつながり、ともにつくる学校をめざします。
多様な体験や「できた」「わかった」といえる学びをもとに、将来の目標やなりたい姿
を見つけ、一歩ずつ成長していくことを大切にします。

2 めざす生徒像

一人ひとりが自己有用感と自信を持ち、夢に向かって挑戦しようとする力を身につけることをめざします。

また、地域とのつながりや社会性の育成を重視し、他者と協働しながら地域社会の一員として自立するための基礎となる力を育みます。

- 自分の特徴を理解し、自信をもって前向きに行動しようとする生徒
- 自分の現状を基に、学びの内容や方法を自分で選択・決定できる生徒
- 自分とは異なる考え方や生き方を大切に、周りの多様なひとと関わりたいと思う生徒
- 将来の進路につながる基礎的学力を身につけようとする生徒
- 地域とのつながりの中で三次(地域)を愛し、地域に貢献しようとする生徒

3 基本的な考え方

不登校などにより学びにアクセスできない生徒(児童)を対象に、心理的安全性が担保された環境を整備し、個々の生徒の特性や興味・関心に応じた、柔軟で包摂的なカリキュラムを編成することにより、学びの選択肢と機会を確保します。

(1) 互いを尊重し、自己肯定感を高める教育の推進

一人ひとりが安心できる、居心地の良い場所となる環境を整備し、誰もがありのまま受け入れられる中で自分を発揮できる教育を推進します。

(2) 一人ひとりに応じた個別最適な学び(カリキュラム)の創造

一人ひとりの興味・関心を軸に、個々に応じた学びが可能となる特色あるカリキュラムを創造・編成します。

(3) 社会的自立をめざす教育の推進

地域資源を生かした多様な体験活動を取り入れ、コミュニケーション能力や多様な価値観を認め合う力等、主体性や社会性の育成をめざします。

(4) ICTを活用した教育の充実

ICTを活用することで、学びの場や方法を一人ひとりが選択でき、学びたいことに存分に挑戦できる環境の充実を図ります。

4 学校の概要

| | |
|-------|---|
| 開校時期 | 令和9年4月 |
| 学校名 | (仮称)三次市立学びの多様化学校 開校後、生徒の意見を参考にしながら選定します。 |
| 設置場所 | 三次市立君田中学校(三次市君田町東入君10361番地2) |
| 校種 | 専任の校長を置く独立した中学校(本校型) |
| 学校規模 | 各学年1学級、1学年10名程度、計30名程度 |
| 対象者 | 市内に居住し、在籍する学校への登校が困難となり、不登校状態または不登校傾向が見られる生徒のうち、次のいずれにも該当する者 ア.「学びの多様化学校」で学びたいという意欲があり、保護者の理解を得ている生徒 イ.環境を変えることで、登校が可能となると在籍学校長が判断する生徒 ウ.「学びの多様化学校」で卒業(もしくは年度末)まで学習を進めていくことを希望する生徒 エ.保護者の責任の下、安全な登下校が可能である生徒 オ.(仮称)入校検討委員会で入学・転入が適当であると判定された生徒 |
| 通学方法 | 検討会議の意見等を踏まえ、検討します。 |
| 給食 | 検討会議の意見等を踏まえ、検討します。 |
| 校則等 | 制服や体操服、カバン等については、特に指定しません。誰もが安全に学校生活を送れることを前提として、適宜、生徒と教職員で考えます。 |
| 学校行事 | 開校後、生徒の声を参考にしながら、実施形態のあり方も含めて検討します。 |
| 部活動 | 開校後、生徒の声を参考にしながら、実施形態のあり方も含めて検討します。 生徒の興味・関心に応じて、教科の学びや学校生活の中でスポーツや文化活動に取り組みます。 |
| 校歌・校章 | 開校後、生徒の意見を参考にしながら検討します。 |

5 学校の特色

(1) 安全安心な居場所・体制について

「自己受容」を学校生活におけるすべての基点とし、生徒一人ひとりの心理的安全性を確保します。

① 安心して過ごせる環境

全教職員がすべての生徒の状況を共有し、どんな場面でも一人ひとりの生徒の思いに寄り添いながら、生徒が安全に安心して生活できる環境を整備します。

② 教職員との信頼関係の確立

一人ひとりの生徒の個別担任制を導入し、話しやすい、相談しやすい関係となる教職員が生徒の成長や生活に伴走する体制を確立します。

③ 生徒の主体性の尊重

生徒の安全・安心を確保したうえで、学ぶ場所や時間等を柔軟に選択できたり、必要なきまりやルールは生徒自身が決めるなど、生徒の主体性を尊重します。

○居場所のイメージ(岐阜市立草潤中学校の例)

可動式の机椅子やパーティションの設置



体を動かしたり、リラックスできる場所



図書室(クッションやハンモックの設置)



一人で学習したいときに利用できる部屋



(2) 生徒基点の学びについて

すべての生徒がそれぞれのペースに応じて、基礎基本の定着を図ることで、着実な成長につながる学びの環境を整備します。

① 柔軟な教育課程

ゆとりのある授業時数や日課とし、生徒一人ひとりの習熟度や理解度に応じて学べる環境をつくります。

② 自己選択・自己決定の尊重

学習内容・方法について、自分で選択し決定できるようにし、その支援と評価をとおして、生徒一人ひとりの学ぶ意欲につなぎます。

③ 多様なつながりの場づくり

学校内の自分以外のひと(生徒、教職員など)と関わる機会を計画的に創出し、自分とは異なる考え方や生き方に触れ、喜びや価値を見出します。

○年間授業時数(予定)

全学年の年間授業時数を、1015時間から770時間に削減

・(仮称)創造…「音楽」「美術」「技術・家庭」を基にした新設教科

・(仮称)結タイム…「道徳」「特活」を基にした新設教科

・(仮称)CORE…総合的な学習の時間としての新設教科

※他の教科(社会・理科等)の時数の一部を加える

【第1学年の例】※上段が三次市立学びの多様化学校、下段が標準の授業時数

| | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 外国語 | 保健 体育 | 創造 (音楽・美術・ 技術・家庭) | 結タイム (道徳・特 別活動) | CORE | 計 | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|----------|-------------------------|-----------------------|------|-----|------|
| 本市 | 105 | 50 | 105 | 50 | 105 | 70 | 105 | 70 | 110 | 770 | |
| 標準 | 140 | 105 | 140 | 105 | 140 | 105 | 160 | 35 | 35 | 50 | 1015 |

○ゆとりのある時程(予定)

| 1日の学校生活の流れ(イメージ) | | |
|------------------|----------------------------|---|
| 時間 | 活動内容 | 備考 |
| ～9:30 | 登校 | 生徒の状況や居住地等を踏まえ、登校時間をゆったりと設定 |
| 9:30～9:40 | ウォーミングアップ | ・心身の健康観察 ・1日の過ごし方の確認 |
| 9:40～9:55 | 個別学習 | 学習の補充(タブレット等の活用) |
| 10:00～10:50 | 1時間目 | 各教科の学習や習熟度別学習等、基礎的・基本的な定着を図る(タブレット等の活用) |
| 11:00～11:50 | 2時間目 | |
| 12:00～12:10 | (仮称)結タイム (コミュニケーションタイム) | 異学年かつ少人数で構成される「ホームグループ」ごとに集まり、対話や交流 |
| 12:10～13:00 | 昼休憩 | 昼食・休憩 |
| 13:10～14:00 | 3時間目 | 各教科の学習、(仮称)創造や(仮称)CORE |
| 14:10～15:00 | 4時間目 | |
| 15:00～15:10 | (仮称)結タイム (クールダウン) | ・1日の振り返り ・翌日以降の予定を確認 |
| 15:10～15:30 | 下校 | 生徒の希望に応じて個別に学習したり、友だちや先生とおしゃべりしたりして過ごす |

(3) 本市の資源を生かした体験・探究

本市の歴史や伝統・文化、産業やひとと多様に関わる学習を大切に、主体的に社会とつながるための基礎を育みます。また、三次への誇り、地域へ貢献しようとする思いを育みます。

① みよしまるごとキャンパス

学校本校のキャンパスのみを学びの場として捉えるのではなく、市内各所の公共施設等を巡回教室として活用し、学校外での多様な場(地域)で学ぶ機会を創出します。

② 学校外のひととのつながりの場づくり

本市の魅力である「多様なひと」を日常の学びに積極的に関わっていただくことで、多様な考え方や生き方を体感する学びをつくります。また、「進んで協力できた」「誰かの役に立つことができた」という自己有用感や自信を大切にします。

③ 本市の自然や歴史・文化、産業とのつながりの場づくり

各地の資源を教材化し、自然とのふれあいや歴史・文化の価値を知るとともに、暮らしを支える産業についても直接体験をする機会をつくることで、地域社会の一員としての自覚につながります。

○みよしまるごとキャンパス(イメージ)



(4) どこでも学べる(アクセスできる)環境

ICTを活用することで、多様なニーズに対応できる、柔軟な学びの環境を整備します。

① どこでもつながる学び

通学を原則としながらも、自宅や学校内の別室でもオンラインを活用した学びができる環境もつくります。

② 自分のペースで学ぶ

AIドリルやデジタル教材を活用した教科の基礎の学び直しや、得意分野の先取り学習ができる環境をつくります。

6 今後のスケジュール(予定)

| | R7年度 | | | R8年度 | | | | | | | | | | | | R9年度 |
|----------|---------------|-------|-----------|-----------------|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 4~ |
| 学びの多様化学校 | 教育課程編成 | | | ● 開校 | | | | | | | | | | | | |
| | ● 文部科学省へ申請書提出 | | | ● 学校説明会 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | ● 入学者募集・面談等 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | ● 就学通知・入学者説明会 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | ● 文部科学省等との連携・調整 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | ● 施設改修(現:君田中) | | | | | | | | | | | | |
| 保護者等 | ● 適宜情報提供・説明 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 検討会議 | ● 第1回 | ● 第2回 | ● 第3回(予定) | ● 第4回(予定) | | | | | | | | | | | | |